

令和7年度 授業改善プラン

地域名	東葛教育事務所	学校名	我孫子市立布佐小学校
-----	---------	-----	------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果、どの教科も全国平均正答率よりも非常に低い状況にあることが明らかになった。児童質問調査においても、全国平均を大幅に下回っている項目に注目し、「話し合い活動」について苦手意識を持っている児童が多いこと、そして教科では算数に苦手意識をもっていることが分かった。
- 令和6年度に実施した校内研究のアンケート結果においても、話す、聞く活動に課題が見られた。友達に説明する時と、聞く時に気を付けていることは、「声の大きさ」や「体の向き」など、態度面の記述が多かった。
- 現状の課題を解決するためには、順を追っての説明することや例を挙げての説明すること、聞く時には、目的をもって聞けるようになってほしいと考えた。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

研究主題 「互いに学び合い、知識・技能を活用できる児童の育成」～算数科の指導を通して～

研究仮説 「学び合いの充実を目指せば、知識・技能を活用できる児童が育つだろう」

研究によって目指す具体仮説（低・中・高学年ごとに設定）

- ① 「解決の見通しをもたせる場面を設定すれば、進んで自分の考えを伝えられるだろう。」
- ② 「互いの考えに触れ合う場面を設定すれば、類似点や相違点を考えられるだろう。」
- ③ 「自他の考えを整理・分類する場面を設定すれば、よりよい考え方が導けるだろう。」

3. 具体的な実践

①教員の授業力向上

- ・毎月の職員会議で「10分ミニ研修」を設定する。
- ・中学校区（中学校1校，小学校2校）での相互参観を計画した。

②今日の一問

- ・帰りの挨拶後，黒板に書かれた問題一問を解いて下校する取り組み（5分程度）を設定した。

③掲示物の作成

- ・具体仮説を達成するために掲示物を作成し，教員も児童も常に意識できるようにした。
- ・具体仮説を意識した授業研究を行った。

4. 成果

令和6年度及び令和7年度全国学力・学習状況調査における児童質問調査結果の比較

- 話し合い活動に関する質問項目では，肯定的な回答が若干増加した。
- 「算数の勉強は好きか」という質問に対し，肯定的な回答が大幅に増加した。

教員の意見（令和7年度校内研究のアンケートより）

- ミニ研修は短時間で集中して取り組めた。
- 掲示物などの視点があることが意識して実践できた。

児童の意見（令和7年度校内研究のアンケートより）

- 説明するのが楽しくなってきた。
- 説明できるようになってきた。

◆担当指導主事から

- 児童の実態や職員の意見について，全国学力・学習状況調査や学校独自のアンケート等を丁寧分析し，授業改善に生かしていた。また，全職員で協力して授業研究に取り組んだり，中学校区での連携を強化したりして，児童生徒の学力向上に取り組んでいた。
- 授業研究では，研究主題である「学び合い」に迫るために，どの学年でも協働的な学びが生まれるように計画されていた。実際の学習の様子では，児童が主体的に他者と関わりながら学ぶ姿がみられており，成果も表れてきている。